

江南区の公共交通について

1. 区バス

目的：区政導入に伴い、まちづくりや区役所等への新たな移動ニーズへの対応

実施主体：市（区役所）

要件：誰でも利用可能（有償）、1日の便数制限なし、収支率30%以下で廃止を検討

【経過】

平成19年度に区内各地区で試験運行を実施し、その結果から本格運行への移行や住民バスでの対応などに移行した。

地区	経過
曾野木地区	収支 23.7%、 H20より本格運行開始（現ルート）
横越地区	収支 5.0%、H19で廃止。地元独自でバスを運行する ⇒ 横バス
大江山地区	収支 4.2%、地元協議の中で、既存の住民バス（延伸）との間で利用者の分散による地元負担の発生を懸念する声があり、新潟交通からも路線が競合していることへのクレームを受け、住民バス1本に。 ⇒ 大江山地区バス
両川地区	収支 4.2%、両川コミ協より H20.3月区バス本格運行の要望書を受け、H20も試験運行を実施したが、利用者低迷により廃止（収支 1.9%）住民バス（延伸）1本に。 ⇒ 両川地域バス

【利用状況】

	H26	H27	H28	H29	H30
利用者数（人）	80,057	86,310	85,751	87,361	89,301
収支率	43.6%	49.5%	50.1%	52.1%	53.3%

H27 江南区福祉センター乗り入れ、車体カラーの統一（緑色）

H28 シニア半割本格実施

H30 市民病院行1便を東京学館新潟高校へ通学しやすいダイヤに変更

【課題】

- ・慢性的な運転手不足により、増便や新規路線の検討ができない状況となっている。
- ・他区では試験運行が不調により廃止となったものがある。（H31.3月末）

2. 住民バス

目的：路線バス廃止地域における地区住民の最低限の生活交通の確保

実施主体：住民組織（運行事業者、市と協力して運行）

要件：誰でも利用可能（有償）、週 70 便、

市の補助割合 70～85%（収支率によっては地元負担の可能性あり）

【区内の住民バス】

- ・カナリア号（茅野山・早通地区）
- ・横バス（横越地区）
- ・大江山地区バス（大江山地区） ※新潟交通の路線バスを延伸
- ・両川地域バス（両川地区） ※新潟交通の路線バスを延伸

【課題】

- ・増便や新規路線の設定については、試験運行（最長 3 年）で目標収支率を達成する必要があるが、地域住民に認知されるまで一定の期間を要することから、目標を達成できず、廃止となる事例が増えている。
- ・収支率については運賃収入のみで計算されるため、路線を維持するために地域住民が負担金や広告収入を得ても、収入に反映することができない。
- ・利用者は学生や高齢者が多い状況の中、学生は自転車利用との併用、高齢者は毎日の利用ではないことから、運賃収入の確保が困難。より実態に即した交通形態の検討が必要。
- ・地域の生活交通を地域住民全体で支える意識醸成が必要。

3. その他（新潟交通路線バス）

実施主体：新潟交通(株)、新潟交通観光バス(株)

要件：誰でも利用可能（有償）、採算が取れなければ減便・廃止の可能性